
タイトロープ

L i t a l y

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイトロープ

【Nコード】

N8550B

【作者名】

L i t t a l y

【あらすじ】

ロープが、こう、ピンと張られてる。あつちとこつち、あんたと俺、地球の裏側、あらゆるものの狭間に、そのロープは張り巡らされている。

一本のロープが、こう、ぴんと張ってる。
あっちの端っこからこっちの端っこまで。
どこ？じゃない。

あっちからこっち。

大抵の事は「あっち」と「こっち」で事足りる。
名前とか、意味とか、そんなのは、そういうのが好きな連中が後から勝手に付けてくれる。

俺はそのロープをもちろん渡らなきゃいけない。
こっちの端っこからあっちの端っこまで。

なんで？じゃない。

ロープがあるんだから渡らなきゃいけない。
ロープが張られてるから渡る。

当たり前的事だ。

猿でも分かる事だ。

俺はそのロープを渡るのをもちろん拒む。

こっちの端っこが俺の場所で、あっちの端っこはそれ以外の場所だからだ。

なんで？じゃない。

俺がここにいるんだから、ここが俺の場所。

ここが俺の場所である以上、俺はロープを渡るわけにはいかない。
当たり前的事だ。

猿でも分かる事だ。

ここで問題が生じるわけだ。
もう、激しく生じるわけだ。

俺はロープを渡らなきゃいけないくて、でも渡るわけにはいかんわけだ。

そこでおれは萎えるわけだ。

もう、激しく萎えるわけだ。

萎えてる場合じゃないけど、でも萎えないわけにはいかんわけだ。

次の瞬間、あつ、て思つて手を前に伸ばす。

手にとどいた気がしたけどやっぱとどいてなくて、
一瞬指の先つちよにかすった感触があつた気がしたんだけど、
それはそう感じただけで実際には触れてなかったかもしれない、
何はともあれ、それと俺の手との距離はこう、どんどん開いてくわけだ。

ばーん、ってね。

落ちる。

当然、落ちる。

あーあ。

落ちちゃった。

残念。

俺はそれをちよつとの間眺めてから、
伸ばした手を引っ込めて、自分の場所に戻る。
皮肉のひとつでも言つてやろうかと考えるけど、
それはいい考えじゃない気がしてやっぱりやめる。

もうなんかめんどくなくて、布団を頭からすっぽりかぶつて寝ることにする。

++++++
++++++

それはロープを伝つてやつてきた。
俺に会いにやつてきた。

オマエの場所を捨ててやつてきた。

どんな覚悟があつたとか、どんな決意があつたとか、
そんなのは大した問題じゃなくて、
俺に会うためにロープを渡ろうとした事実だけがそこにあつて、
それは俺にとって、この手で触れられそうなくらい身近な問題であるように、

実際には全くもってして俺の外の問題だったりして、
だからやっぱり手はとどかなくて、
だからちよつとだけ泣いてみたりしてね、

なんてね、嘘だよーか。

全てのものに愛を込めて。

FUCK

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8550b/>

タイトロープ

2010年12月29日14時16分発行